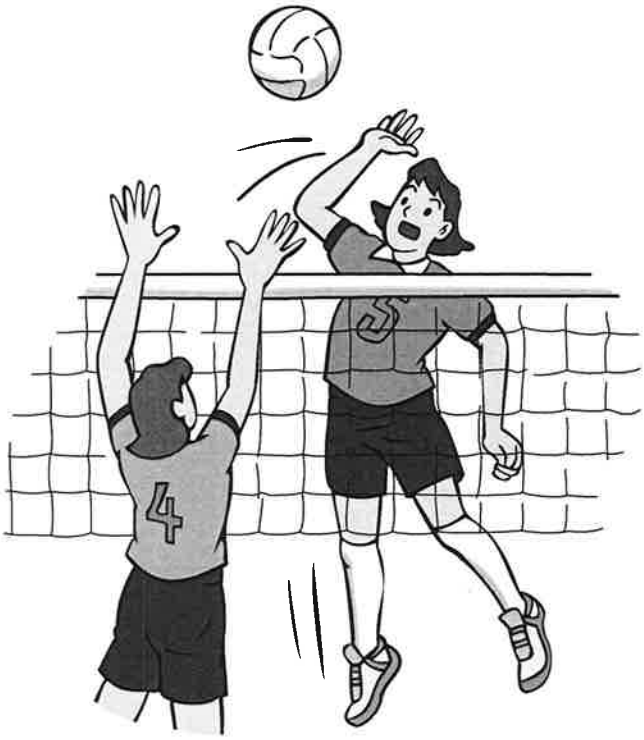
長崎県小学生バレーボール連盟
平成３１年度小学生バレーボール審判講習会

資　　料



日時：平成３１年４月３０日（土）

場所：諫早市立御館山小学校体育館

日時：平成３１年５月２日（日）

場所：野母崎体育館

２０１９年度　運営基本方針

Ⅰ　基本理念

日本小学生バレーボール連盟は、一人でも多くの子供たちにバレーボールの楽しさを味わわせ、子供たちにボールをつなぐことの大切さを伝えると共に、子どもと共に発展していきます。

Ⅱ　２０３０年に向けた長期目標

1　自分で考え、練習や試合に臨むバレーボーラーを育てる指導を進めます。
　指導法の改善や指導者の意識の変革を図りながら、子供たちが意欲をもち、自分で考えながらバレーボールに取り組めるよう進めていきます。

2　競技に参加する機会を増やし、楽しくバレーボールに取り組めるように進めていきます。
　子供たちが、心身共に健康で楽しくバレーボール取り組むためには、どのような環境の中で行うことが良いのか考えていきます。

Ⅲ　２０２１年に向けた中期目標

1　低年齢層の子どもを対象とした事業を推進します。
　幼稚園児や保育園児を対象としたソフトバレーボール教室やU-１０交流大会を充実発展させ、低年齢からバレーボールに親しみ、バレーボールの楽しさを知ってもらう努力をしていきます。

2　２０２１年度以降の大会に向け実行可能な計画を作成します。
　全国大会のあり方の答申を受け、子供たちが目標とする全国大会のあり方を検討していきます。

Ⅳ　具体的方策

1　子どもを支えることが、大人（保護者、指導者、役員）の役割です。
（1）Thank　You　VBCの理念を徹底し、「理想の指導者」、「育てる子どもの姿」を更に浸透させていきます。
（2）協力会社との関係を一層強固なものにするとともに、新たな協力企業を開拓します。
（3）他のスポーツ団体等と協力し、バレーボールが楽しめる環境を充実させます。

2　日本小学生バレーボール連盟の組織を、時代のニーズに合わせて強化していきます。
（1）小学生バレーボールの普及及び発展を長期にわたり支える組織を目指し、２０２０年度に連盟の法人化を行います。
（2）当連盟の組織力を高めるため、次代を担う人材の発掘及び育成に力を入れています。
（3）４７都道府県連盟の役割を充実させるため、各委員会の研修会を実施します。

3　時代が求める指導者の育成のため、指導者講習会の役割を見直します。
（1）次期指導者資格制度の実施に向け、講習会の内容を整備します。
（2）指導者へ様々な情報提供を行えるよう、個人情報の管理を進めるなど指導者資格制度の充実を図る。

4　第３９回小学生大会は、複数の企業から応援いただくとともに、安定した大会運営に向け努力します。
（1）子どもが視野を広げることができる視点を更に発信していきます。
（2）基本財源となる商品の販売を４７都道府県が協力して行い、参加チームの費用負担の軽減を図ります。
（3）２０２０年に開催する福島・宮城・岩手開催に向けた準備を一層進めます。

Ⅴ　２０１９年度　日本小学生バレーボール連盟　予算編成指針

1　指導者の資質向上を一層図ることを目指し、指導者資格の整備を行います。
2　各委員会の充実を図り、日本小学生バレーボール連盟を支える人材の育成を行います。
3　４７都道府県小連が安定した運営ができるよう支援していきます。
4　低年齢層への普及を進める事業を積極的に実施していきます
5　予算執行を円滑に行うため、予算編成・管理を行う体制を整備します。

2019年度　日本小学生バレーボール連盟

審判委員会　運営基本方針

一人でも多くの選手に正確なルールやフェアープレーの大切さを伝え、バレーボール競技を十分に楽しめる環境をつくっていきます。

thank you プレーヤー ・ thank you スタッフ ・ thank you フェアープレー

審判員の目指す姿

1. 試合を通して、心と技のバランスのとれた選手の育成をサポートします。
   (1) フェアープレーに取り組む選手の行動には、積極的にグリーンカードを活用していく。
   (2) 指導者や選手とルールやマナーについて積極的に話し合いを行う。
   (3) 「ウェルフェアーオフィサー」への取り組みを進めていく。
2. ニーズにあった講習会のあり方を考えていきます。
   (1) 指導者や選手を対象に、ルールの正しい伝達と小学生の取り扱いへの理解を深める。
   (2) 地区やブロック単位などの様々な規模での講習会や、スキルに応じた講習プログラムを構築し、ルールの取り扱い等の周知を図る。
   (3) 子どもたちが審判（スコアラー・ラインジャッジ）を楽しめるよう、指導の工夫をする。
3. 審判のスキルアップと審判員の育成を図ります。
   (1) ルールの正しい理解と正確な取り扱い、公正な判定を心掛ける。
   (2) 安定したハンドリング基準と不当な要求や予期せぬ事態への対応力向上に努める。
   (3) 指導者や選手の審判活動に対して、ライセンスを取れる仕組みを考えていく。
   (4) 女性審判員や次世代を担う若手審判員の発掘と育成に努め、バレーボールを支える人材の裾野を広げていく。
4. 競技（試合）環境を整えます。
   (1) 競技委員との情報共有を図り、緊急時の対応について準備をする。
   (2) フェアープレーの啓発を行い、体罰、暴力、暴言、差別の根絶に努める。
5. 公認審判員の活動
   (1) JVA-MRS 審判員資格登録を行い JVA-ID を取得する。
   (2) 資格に伴った、幅広く豊かなレフェリーキャリアを積み、知識と技術を子どもたちに還元する。

ウェルフェアーオフィサー

自らフェアープレーの啓発を促進し、暴力、暴言、差別等の予防活動を通して

問題を未然に防ぐ、また、解決を図る役目を担う

健全で安心・安全な競技環境を作る、もう一つの役目

「バレーボール」は、暴力・暴言を用いての指導を　しない！　させない！　許さない！

指導者や選手は、競技ルールやマナーを守り、自ら協力する態度を身に付けることが大切

バレーボールのスタートの場である小学生連盟では、指導者や保護者、審判などの大人が選手の健全育成を考え

教え、育てるための判断をし、ポジィティブに行動しなくてはならない。

正しい基本技術とルールなどの知識を身に付けることに加え、仲間とともに困難を乗り越え、できた喜びや楽しさを

子どもたちが十分に味わえる環境を作ること、スポーツの健全性・安全性を守ることは大人の責務です！

いかに教えるかではなく　いかに納得させるか　　アーセン・ウェンゲル

体罰の問題点　子どもたちに何が残る？

- □ 体罰は、恐怖感を与えることで子どもの言動をコントロールする　（恐怖・逃避）
- □ 体罰は、ストレスの発散となり、エスカレートする　（苦痛・屈辱感）
- □ 体罰は、即効性があるので、他のしつけの方法がわからなくなる　指導知識不足　（不信・不安）
- □ 体罰は、見ているほかの子どもに深い心理的ダメージを与える　（軽蔑・不信）
- □ 体罰は、ときには必要だと思っているスタッフがいる　（不信）
- □ 体罰は、保護者の中にも容認されている　（プレッシャー）
- □ 体罰による指導は、相手の心と身体に傷を残す　（心的外傷）
- □ 体罰を受けて指導された選手は、体罰を用いる指導者になる　（指導の無知）
- ■ 暴言も暴力になる（言葉の暴力）　本人は暴言だと思っていない
- ■ 暴力か？暴言か？　受けている側が思うことであるが、子どもたちは指導者にも保護者にも言えない

参考　激励を受けた　子どもは　自信を　おぼえる　　寛容にであった　子どもは　忍耐を　おぼえる

賞賛を受けた　子どもは　評価を　おぼえる　　フェアープレーを経験した　子どもは　公正を　おぼえる

友情を知る　子どもは　親切を　おぼえる　　安心を経験した　子どもは　信頼を　おぼえる

ドロシー・ロー・ノルト

日小連競技・審判合同研修会資料　　２０１９年4月１３日

日小連競技委員長
大久保　裕二

１．ユニフォームについて

① ユニフォームの袖の長さ…小学生では、ノースリーブの袖は認めていない。

② 全国大会では、JVA公認企業ロゴのユニフォームを着用する。（資料参照）

③ 番号は、ジャージの胸部と背部のそれぞれ中央に付けなければならない。番号の色と明るさは、ジャージと対照的でなければならない。

④ 番号は、胸部が最小限１０ｃｍ、背部が最小限１５ｃｍの高さのものを用いる。番号の字幅は最小限２ｃｍである。

⑤ 都道府県名…都道府県名はチーム名より小さい（高さが低い）こと。（資料参照）

⑥ アンダーウエア…アンダーウエアはユニフォームの袖や裾、首などからはみ出してはならない。→冬場の暖房のない体育館での試合では、半袖のユニフォームからアンダーウエアがはみ出てもよい。但し、全員が同じ色であること。

２、ベンチスタッフの服装について

①ベンチスタッフのウエアも公認企業のロゴ入りのものを着用することをお願いしたい。

②ベンチスタッフに小学生が入る場合、Ｔシャツ・短パンでも良い。但し、他のスタッフと上着とパンツの色に近いものにする。

３、旗の配列について

①資料参照

４、リーグ戦形式の順位決定方法

①資料参照

５、競技記録の記入方法

①資料参照

６．テクニカルタイムアウトについて

①テクニカルタイムアウトとは？

給水のためのタイムアウトであり、戦術的な指示をするタイムアウトではない。

７、その他

①賞状の表記について…「優勝」・「準優勝」とする。

②体育館のフロアで練習できるのは、プログラムに記載されているベンチスタッフと選手だけとする。

２０１９．４．１３

小学生バレーボール競技規則の取扱いについて

第１条　施設と用具

１　コートは１６ｍ×８ｍの長方形で、センターラインの幅の中心により、８ｍ×８ｍのコートに２等分される。アタックラインは、ラインの幅の後端がセンターラインの幅の中心から２．７ｍとなるように引く。

アタックラインは、サイドラインから外側に、長さ１５ｃｍ、幅５ｃｍの短いラインを２０ｃｍ間隔で全長１．４０ｍとなる破線を引き、延長される。

１　取り扱いについての確認

・延長されたライン内側は選手交代ゾーンとなり、ゾーンに選手が入ることで選手交代の要求となる。選手交代は、選手交代ゾーン内で行わなければならない。(15.10.1)

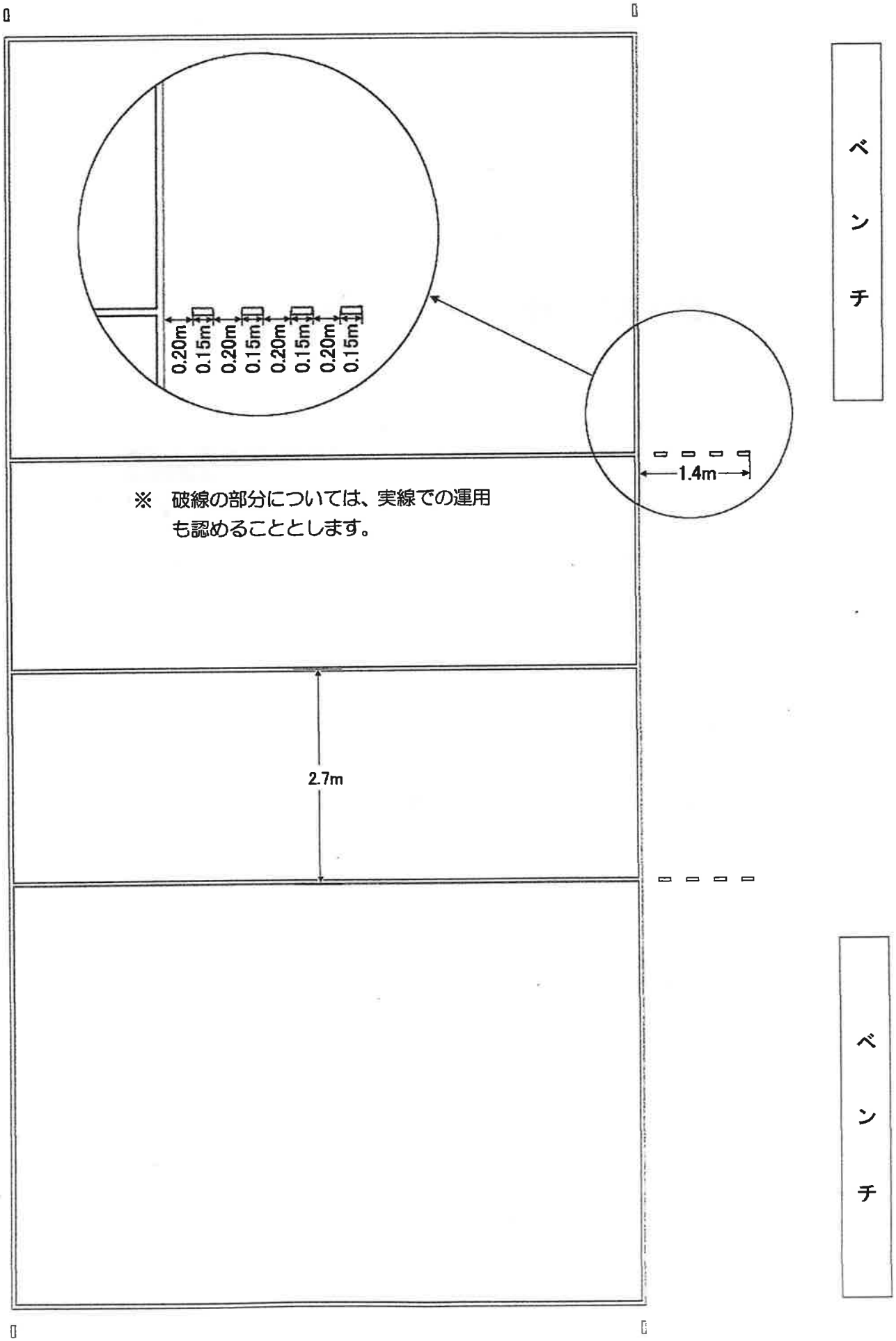
・監督を含むチーム役員は、ベンチに座っている限りコート上の選手に対し指示を出すことが許される。ラリー中はベンチに座っていなければならない。

・監督がコートもしくはウォームアップエリアに近づく主たる目的は、選手に対して競技に必要な指示を与える為である。みだりに監督が立ち上がったりする行為を許容するものではありません。過度に目的から逸脱した行為に対しては競技規則２１条によって処置します。監督を含めチーム役員が、自然発生的に喜びを表す表現として偶発的に立ち上がったりする行為は、許容範囲です。しかし監督以外のチーム役員(選手)が毎回のように立ち上がったり、あるいはベンチから数歩前に出たりする行為は、ルール違反です。また、監督がコート上の選手等とハイタッチや跳んだり、跳ねたりする行為、相手を威嚇する行為等もルール違反となります。

２　コートレイアウト

別紙参照

2019年度 小学生バレーボール コートレイアウト



公益財団法人日本バレーボール協会
2019年度　基本方針

日本バレーボール協会（JVA）は、2011年2月1日に公益財団法人へ移行し、10期目を迎える。昨今のスポーツ界においては、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（東京2020大会）を目前に控え、スポーツへの関心が高まる中で様々な不祥事が続き、スポーツ・インテグリティの向上が喫緊の課題となっている。このような環境のもと、JVAは、バレーボール、ビーチバレーボールの魅力を最大限に発揮するとともに、JVAのガバナンス及びコンプライアンスを更に強化し、バレーボールを愛するすべての国民の心身の健全な発達、維持および人間性の向上に寄与し豊かな社会の形成に貢献することを目指す。

1．基本方針

2018年10月にキックオフをした、中期経営計画を推進するための重要なステップとなる2019年度において、特に下記の項目を重点項目として着実に実行していく。

財務改革の推進

中期経営計画の最重要課題の1つでもある財務改革について、2019年度においても収入・費用の両面からの改革を断行する。

■費用削減：大会経費の削減、強化費用の精査

■収入増大：大会収入の増加、協賛金、グッズ販売

選手強化事業

東京2020大会において最大限のパフォーマンスを発揮するための強化策の実行及び2024パリ大会を見据えた強化を推進する。

体罰・暴力・ハラスメント根絶に向けた取り組みの強化

体罰・暴力・ハラスメント対策プロジェクト（仮称）による実態調査、指導者教育の再構築等の対策を立案し、実行する。

MRS改善への取り組み

バレーボールを愛する人すべてに参加いただける、バレーボールファミリー会員制度（仮称）として、2020年度からの実行を目指す。

加盟団体との連携強化

加盟団体との更なる連携強化、経営課題の抽出・整理、法人化を推進する。

また、Vリーグ機構との連携強化（加盟団体化、年間の共同マーケティング、プロモーション）を図る。

ビジネスモデルの改革

従来からの大会運営にとらわれることのない、新ビジネスモデルの構築（大会価値の向上）に着手する。

■国際大会、国内大会、2020テストマッチ

２０１９年3月２３日

２０１９年度　公益財団法人日本バレーボール協会
審判規則委員会　　運営基本方針

２０１９年度審判規則委員会の運営基本方針を以下の５項目とする。

1　映像等を活用し判定基準の統一を図り、安定した審判技術とメンタル面の強化に努める。また、試合中の選手やチームスタッフの言動に対しては、ルールを的確に適用し、公平・公正で手際の良い判定により安全で円滑な競技運営を行う。

2　国内競技会及び国際競技会の成功を期すため事前講習会を開催し、スコアラー・アシスタントスコアラー・ラインジャッジ・コートオフィシャルの質的向上を図る。特に、２０２０東京オリンピックに向けて、スコアラー、ラインジャッジ、コートオフィシャルについて各大会の機会を捉えたトレーニング計画を立て、効果的に実践を通してレベルアップを図る。

3　選手・指導者を対象に、ルール及び取扱いについて説明を行い、正しい理解とルール遵守を醸成する。

4　Ａ級審判員資格取得講習会、ビーチバレーボール特別Ａ級審判員資格取得講習会を実施し、次世代を担う若手審判員の発掘、育成を進める。

5　男女共同参画をさらに進めるため、各カテゴリー・各都道府県にも女性審判員の活動の支援を推進すると共に、メンタル面の強化及び審判技術の向上を図る。

指導部:審判員の技術の向上を目指し、カテゴリーに応じた適切な講習会を実施する。また、審判員の責務として、選手及びチームスタッフに対しルールを正確に伝達してルールの理解を深めるよう努力する。

（１）Ａ級審判員のカテゴリーを設け、レベルに応じスキルアップのための技術強化事業を推進する。
（２）チームの選手・指導者に対してルールの改・修正点やルールの取扱い等の周知を図り、バレーボール・ビーチバレーボールの競技力の向上に資する。
（３）女性審判員の育成に努める。
（４）公認審判員、特に若手審判員の育成に努め、裾野の拡大を図る。

規則部：見易く正確で分り易いルールブックの作成を目指し、６人制をはじめ４種別のケースブックの編集・整理を行っていく。９人制についても競技の活性化を図るために、親しみやすいバレーボールを目指し、そのルールの研究を進める。

登録部：ＪＶＡメンバー制度（ＭＲＳ）に従って、公認審判員のＭＲＳ登録の増加を図るとともに、公認審判員の現状把握を行う。

以上

2019年度　ルールの改正点・修正点について

2019年度のルールブック作成に向け，各種ルールブックの条文の整理および文章表現等を編集会議で検討し，見易く正確で理解し易い表現としたルールブックの作成を行った。４回の編集会議を行い，６回の校正作業を行った。

【６人制】

本競技規則は，2017年１月18日にFIVBより「ルールブック2017－2020」として公表されたものをもとに，それをもとに，2019年度版ルールブックの修正点を以下のようにまとめた。

2019年度版ルールブックの最大の特徴は，『2020 東京オリンピック』ムーブメントに向けて『英文併記』としたことである。

なお，2019年度版についても2018年度版同様に「ケースブック」のケース番号に『ビデオ』と記載した項目についてはインターネット上にサイトを作成し，ルールブック巻末にそのサイトのURLとQRコードを掲載しFIVBのCASEBOOKの動画ビデオを見ることができるようにした。

以下が本年度の主な改・修正点である。

●改正点

１．1.3.4　アタックライン

アタックラインは，それぞれのコートに，そのラインの後端がセンターラインの中心から３ｍとなるように引かれる。アタックラインによりフロントゾーンが区画される。（規則1.4.1）

FIVB 世界・公式大会では，アタックラインはサイドラインから外側に，長さ 15 cm，幅 5 cm の短いラインを 20 cm 間隔で，全長 1.75 m となる破線を引き，延長される。

２．1.5　気温

最低気温は10℃（50 ℉）を下回ってはならない。

FIVB 世界・公式大会では，最高・最低気温は大会のテクニカルデレゲートによって決定される。

３．5.2.1　監督は，試合を通して，コートの外からチームのプレーを指揮する。（以下削除）

４．5.2.3.4　他のチームメンバー同様，コート上の選手に指示を与えてもよい。監督は，試合を妨げたり，遅らせたりしなければ，自チームベンチ前のアタックラインの延長線から競技コントロールエリアのコーナーにあるウォームアップエリアまでのフリーゾーン内で，立ちながらでも歩きながらでも指示を出すことができる。もしも，ウォームアップエリアがチームベンチの後方にある場合は，監督は，自チームのコートのアタックラインの延長線からエンドラインまで移動してもよい。

●修正点

１．規則をより読み易くするため，単語訳や表記を見直し，字句を修正した。

２．ケースブックをより読み易く理解しやすいように表現を一部修正した。

３．＊付則の６　JVA 競技会におけるベンチスタッフは，ジャケットまたは統一された服装でなければならない。ただし，統一されたジャージであっても，スタッフの数名が脱ぐ場合は下に着るポロシャツ等を統一しなければならない。

４．図・表については規則の本文末にまとめた。

２０１９年3月２３日

『２０１９年度　指導部の目標と６人制の重点指導項目』

公益財団法人日本バレーボール協会　審判規則委員会　指導部

１　目　標

（１）審判員は、競技規則を理解するだけでなく、正確に適用する。
（２）審判員は、ホイッスルやハンドシグナルを大切にし、基本的な動きや位置取り、手続きを確実に行う。
（３）審判員は、向上心を持ち、日頃から信頼されるよう多くの経験を積む努力をする。

２　重点指導項目

【主　審】

（１）不法な行為について
・参加競技者の不法な行為に対しては、毅然とした態度で競技規則を適用する。
・軽度な不法行為を見逃すことなく、早い段階でステージ１を与える。

（２）ハンドリング基準について
・クリニック等で基準の確認を行い、すべての審判員が統一できるようにする。
・ラリーを継続するという理由で基準を下げない。
・シングルハンドトスの反則の多くはキャッチの場合が多い。ただボールが回転したからといって反則にすべきではないが、反則が起こらないということではない。

（３）サービス許可について
・前のラリー終了後、両チームの準備ができ、サーバーがボールを保持している状態であれば、およそ８秒で次のサービス許可をする。

（４）最終判定の出し方について
・ボールコンタクト、ライン判定について主審が判定に確信が持てない時に限り、判定を出す前に副審、ラインジャッジを呼んで確認する。判定を出した後、チームのアピールで副審、ラインジャッジを呼び判定を覆すことは信頼を失うことになる。

【副　審】

（１）不法な行為について
・ネット際、ベンチ等の主審が気づかない不法な行為があれば主審に伝える。

（２）ポジションの反則について
・サービスヒットの前に移動したり、明らかに入れ代っているなどを見逃さない。
・試合の早い段階で判定をする。

（３）タッチネットについて
・反則となる可能性がある場合は、副審はボールを追わずに目を残し判定をする。

（４）サービスヒット後について
・サービスヒット後、副審はサービスボールが副審側の許容空間外側を通過するか、あるいはアンテナに触れるかを判定するために素早くネット上方に視線を移す。

（５）中断の要求について

・ゲームの流れを読むとともに、ワンラリー毎にベンチコントロールを行う。

・最終セットのチェンジコート後は、ポジションを確認しスコアラーの両手を確認後、中断の要求やリベロのリプレイスメントがあれば受けつける。

・選手交代の手続きを十分理解し、複数の交代、両チーム同時のケースについてスムーズに行えるようにする。

・タイムアウト（テクニカルタイムアウト）後、コートに入ることが遅い場合、ホイッスルとシグナルで促す。繰り返す場合は遅延の罰則を適用するよう進言する。

【スコアラー】

（１）サービス順の確認、得点の確認をしながら、正確に記録をつける。疑わしいときは試合を止め、アシスタントスコアラー等に確認をしてミスの無いようにする。
（ＪＶＩＭＳがある場合は、その情報も参考にする）

（２）ブザーがある場合、セット間終了はブザーで合図する。

（３）選手交代は確実に選手番号（または○印）とその時の得点を記入する。

・チームが複数の選手交代の要求をした場合は、最初に１度だけブザーを鳴らす。

・同時に両チームから選手交代の要求があった場合は、片方のチームの選手交代を完了させた後、再度ブザーを鳴らしてからもう一方のチームの選手交代を行う。

（４）記載ミスをした場合は、二重線で消す。主審と副審が確認したときに誤りがあったときは、スコアラーが修正する。

（５）予備の記録用紙を準備する。

【アシスタントスコアラー】

（１）スコアラーと声を掛け合って、交代選手の番号や得点を確認し合う。

（２）不法なリベロリプレイスメントがあれば、サービス許可のホイッスルのあと、すぐにブザーを鳴らす。

（３）タイムアウト、テクニカルタイムアウト中は、リベロの位置を副審に通告する。リベロが２人のチームの場合、リベロがコートにいるときは番号も副審に通告する。

（４）スコアーボードの得点が正しいか確認する。

（５）テクニカルタイムアウトの開始と終了を通告する。

（６）予備のリベロコントロールシートを準備する。

【ラインジャッジ】

（１）担当するラインの判定を確実に行う。ボールコンタクトは、確実に見えた場合に限りフラッグシグナルを示す。

（２）アンテナに関わる判定方法やボールを取り戻す場合の判定方法を確認し、試合に臨む。

2019年度　6人制ルールの取り扱いについて

2019.3.23

1　競技参加者の行為に関する事項

20.1　スポーツマンにふさわしい行為

20.1.1　競技参加者は，公式バレーボール規則に通じていなければならない。また，それを忠実に守らなければいけない。

20.1.2　競技参加者は，審判員の決定に対し，スポーツマンらしく反論せず，受け入れなければならない。

疑問がある場合には，ゲームキャプテンを通じてのみ説明を求めることができる。（規則5.1.2.1）

20.1.3　競技参加者は，審判員の決定に影響を与えたり，またはチームの反則を隠したりする行動や態度は避けなければならない。

20.2　フェアプレー

20.2.1　競技参加者は，審判員だけでなく，他の役員，相手チーム，チームメイト，さらに観衆に対しても，フェアプレーの精神で敬意を示し，礼儀正しく行動しなければならない。

（注）

1　主審の判定に対するゲームキャプテンの質問は受け入れるが，その内容がルールの取り扱い等に関する質問ではなく，判定に対する抗議や意見を述べる等の場合やゲームキャプテン以外の選手が質問に来た場合は，拒否する。

2　競技参加者が，規則20に~~反した~~該当した場合，警告が与えられる。繰り返した場合は，ペナルティが科せられる。

3　競技参加者が，審判員に向かって判定に対して執拗に抗議するような態度をとった場合，警告が与えられる。繰り返した場合は，ペナルティが科せられる。

【主にステージ1に該当するケース】

①主審が最終判定を出した後にも審判員に不満を示す態度や言葉を発した場合。

②主審がゲームキャプテンの質問に答えた後にも，さらに論争を長引かせるようにした場合。

③繰り返しゲームキャプテンの質問の内容が規則の適用や解釈でない場合。

④一度指導されているのに，再びゲームキャプテン以外の選手が判定に対して質問をした場合。

⑤ネット越しに相手の選手などに対して，馬鹿にしたり威嚇をしたりする行為があった場合。

【主にステージ2に該当するケース（直接イエローカードを出すケース）】

①主副審やラインジャッジの判定に対して執拗な抗議や威嚇的な態度を示した場合。

②主副審やラインジャッジの判定に対して，ベンチスタッフや控えの選手がベンチから飛び出して判定に異議を訴えた場合。

4　監督が副審やスコアラーに話しかけることができるのは，リベロの再指名の時や得点が正しくない時などの声かけ程度のものであり，説明を求めたり，長く話しかけるようなことはできない。
5　プレーイングエリア内で「ガム」を噛んだり，帽子をかぶることは許されない。
6　試合終了後，監督・主審・副審はフェアプレーの精神でお互いに「握手」を交わす。

2　チームリーダーに関する事項

5.1　キャプテン

5.1.2　試合中，チームキャプテンはコートに入っているときにはゲームキャプテンとなる。チームキャプテンがコート上にいないときは，監督またはチームキャプテンは，ゲームキャプテンの役割を担うリベロ以外のコート上の選手を指名しなければならない。指名されたゲームキャプテンは，選手交代で退くか，チームキャプテンがプレーに復帰するか，またはそのセットが終了するまで，その責務を担う。

5.2　監督

5.2.2　試合開始前，監督は選手の名前，番号を記録用紙のチーム選手欄に記入するか，記入されたものを確認した後，サインする。

5.2.3.4　他のチームメンバー同様，コート上の選手に指示を与えてもよい。監督は，試合を妨げたり，遅らせたりしなければ，自チームベンチ前のアタックラインの延長線から競技コントロールエリアのコーナーにあるウォームアップエリアまでのフリーゾーン内で，立ちながらでも歩きながらでも指示を出すことができる。もしも，ウォームアップエリアがチームベンチの後方にある場合は，監督は，自チームのコートのアタックラインの延長線からエンドラインまで移動してもよい。

（注）
1　監督の指示
監督が，試合中，自チームベンチ前のフリーゾーン内で，立ちながら歩きながら指示を出している場合，ラインジャッジ（特にＬ２）の判定の妨げにならないように審判員が注意する。
2　監督が試合に遅れて来た場合
①　遅れて来た監督は，ベンチに着席することができる。
②　ゲームキャプテンは，監督が来たことをラリー間に審判へ口頭で伝える。
③　審判が，監督が来たことを確認したら，監督は権利を行使することができる。
④　監督は，セット間もしくは試合終了後に記録用紙にサインする。

3　ゲームキャプテンの指名

①セット開始時に，チームキャプテンがコート上にいない場合，副審は監督またはチームキャプテンにゲームキャプテンを確認する。ただし，次のセット開始時も同様の場合は，前セットに指名された選手がゲームキャプテンになるので，再度監督またはチームキャプテンに確認する必要はない。指名されたゲームキャプテンは，確認のため手を挙げる。ただし，同一選手によるゲームキャプテンの確認は，試合を通して一度でよい。

②ゲームキャプテンが，選手交代やリベロリプレイスメントでコートを離れた場合，副審は監督またはチームキャプテンに新たなゲームキャプテンを確認する。

③ゲームキャプテンが，選手交代やリベロリプレイスメントでコートを離れた時，試合中にゲームキャプテンに指名されたことのある選手がコート上にいる場合は，監督またはチームキャプテンからの申し出がない限り，その選手がゲームキャプテンになるので，再度監督またはチームキャプテンに確認する必要はない。

④ゲームキャプテンが，選手交代やリベロリプレイスメントで一旦コートを離れた後，再度コート上に戻ったとしても，監督またはチームキャプテンからの申し出がない限り，現在指名されている選手がセット終了までゲームキャプテンとなる。

⑤セット開始時に，これまでゲームキャプテンに指名された選手がコート内に複数いて，ゲームキャプテンが不明な場合は，監督またはチームキャプテンに再度確認してもよい。

3　プレーの構造に関する事項

7.3　スターティングラインアップ

7.3.5　コート上の選手のポジションが，ラインアップシートと違う場合には，次のように対処する：

7.3.5.2　セット開始前，そのセットのラインアップシートに記入されていない選手がコート上にいることが発見された場合は，この選手はラインアップシートに従い変更されなければならない。この場合には罰則の適用はない。

7.3.5.3　しかし，監督がそのようなラインアップシートに記入されていない選手をそのままコートでプレーさせたい場合には，監督は正規の選手交代を，該当するハンドシグナルを用いて要求する必要があり，記録用紙に選手交代が記録される。

もしも，ラインアップシートと選手のポジションの違いが，もっと遅い時点で発見された場合は，間違いのあったチームは，正しいポジションに戻さなければならない。相手チームの得点はそのまま有効で，さらに１点と次のサービスが与えられる。間違いをした時点から発見されるまでに，間違いのあったチームが得たすべての得点は取り消される。

7.3.5.4　記録用紙のチーム選手欄に登録されていない選手がコート上にいることが発見された場合は，相手チームの得点はそのまま有効で，さらに１点と次のサービスが与えられる。間違いのあったチームは，登録されていない選手がコートに入った時点から得たすべての得点とセット（必要であれば 0-25 として）を失い，修正したラインアップシートを提出し，登録されていない選手がいたポジションに，登録されている選手を新たにコート上に送らなければならない。

7.4　ポジション

サーバーによりボールが打たれた瞬間，両チームは（サーバーを除き）それぞれのコート内で，ローテーション順に位置していなければならない。

7.5　ポジションの反則

7.5.1　サーバーによりボールが打たれた瞬間に，いずれかの選手が正しいポジションにいない場合は，そのチームはポジションの反則をしたことになる。選手が不法な選手交代をしてコート上にいて，試合が再開された場合は，不法な選手交代によるポジションの反則とみなされる。（規則 7.3，7.4，15.9）

7.7　ローテーションの反則

7.7.1　サービスが正しくローテーション順に行われなかったとき，ローテーションの反則となる。その場合は次のような順序の結果となる：

7.7.1.1　スコアラーがブザーによって試合を止めた場合，相手チームに 1 点と次のサービスが与えられる。

もしも，ローテーションの反則により始まったラリーが完了した後に，そのローテーションの反則が指摘された場合は，そのラリーの結果に関係なく，相手チームに 1 点だけが与えられる。（規則 6.1.3）

7.7.1.2　反則をしたチームのローテーション順は正しく直される。（規則 7.6.1）

（注）

1　セットの開始前，ラインアップシートに記入されていない選手がコート上にいる場合

①副審は，ラインアップシートを監督に示し，記入されていない選手がコート上にいることを告げ，どちらの選手がスターティングメンバーかを尋ねる。

②監督が，ラインアップシートに記入されていない選手をコートに残すことを要望する場合は，該当するハンドシグナルを示し正規の選手交代を要求する。副審は，ハンドシグナルを示しながらホイッスルをする。スコアラーは，正規の選手交代として記録をする。この際，ラインアップシートどおりの選手をコートに戻す必要はない。（コート上の選手は手を挙げる）

③監督が提出したラインアップシートどおりの選手をスターティングメンバーとすることを要望する場合は，その場で選手を入れ替えさせる。この場合には制裁はない。

④副審は，両チームのラインアップを確認後，主審にシグナルを示し，ゲームが開始される。

2　不法な選手交代によるポジションの反則やローテーションの反則により始まったラリーが完了した後にその反則が発見された場合は，ラリーの結果をキャンセルし相手チームに 1 点と次のサービスが与えられる。また，間違いがもっと遅い時点で発見され，間違いをした時点が明らかな場合は，発見されるまでに間違いのあったチームが得たすべての得点は取り消される。

3　チームがサーバーについて審判団より誤った情報を与えられ，そのセットが進行した後に誤りが発覚した場合，誤った情報が与えられた時点の状態にラインナップを戻し，得点も誤った情報が与えられた時点まで戻す。タイムアウト，ＴＴＯ，罰則はそのまま有効とする。これらの事実は，記録用紙に記録されなければならない。

4　サービスがヒットされた瞬間に，コート上の選手の足が相手コートに触れていた時は，ラリー中に選手が相手コートへ侵入する場合と同様に考える。（規則　11.2.2.1）

4　ネットの下からの相手コートへの侵入

11.2.1　相手チームのプレーを妨害しない限り，ネットの下で相手空間に侵入してもよい。

11.2.2　センターラインを越え相手コートに侵入すること：

11.2.2.1　相手コートに侵入している片方の足（両足）の一部がセンターラインに触れているか，センターライン真上の空間にあれば，その足（両足）は相手コートに触れてもよい。

11.2.2.2　相手チームのプレーを妨害しない限り，足首より上の身体のどの部分が相手コートに触れてもよい。

（注）

1　選手が，レシーブのためにネット付近でスライディング等のプレーをした時に，誤って相手コートに入ってしまった場合，両足が完全に相手コート上の空間にあったとしても，足が相手コートに触れておらず，相手のプレーを妨害していなければ，反則とはみなさない。

5　サービスに関する事項

12.3　サービスの許可

主審は，両チームがプレーする準備ができ，サーバーがボールを持っていることを確認した後に，サービスを許可する。

12.5　スクリーン

12.5.1　サービングチームの選手は，１人または集団でスクリーンを形成し，サーバーおよびサービスボールのコースが相手チームに見えないように妨害をしてはならない。

12.5.2　サービスが行われるとき，サービングチームの１人または複数の選手が集団で腕を揺り動かしたり，跳びはねたり，左右に動いたりして，あるいは集団で固まって立ち，ボールがネット垂直面に到達するまでにサーバーとボールのコースの両方を隠すことでスクリーンが形成される。

（注）

1　ラリー終了のホイッスルから次のサービス許可のホイッスルまでの時間を，およそ８秒のテンポで行う。

2　ラリー終了のホイッスルの後，選手交代やワイピングがない場合，およそ８秒が経過すればサーバーがサービスゾーンでボールを保持していることを確認し，サービス許可のホイッスルをする。

3　低いサービスボールが，形成されたスクリーンの上を通過しネット垂直面を通過したときに，スクリーンの反則が成立する。

4　コート上に５人だけ，または７人の選手がいるときには，サービスのホイッスルの前にコート上の選手が６人になるように促す。もし，主審がそのことに気づかずにサービスのホイッスルをした場合，およびラリーが始まったり完了した場合，主審はそのことに気づいたら直ちに罰則無しにラリーをやり直さなければならない。

6　中断に関する事項

15.11　不当な要求

15.11.1　以下のような正規の試合中断の要求は，不当な要求である。

15.11.1.1　ラリー中，またはサービスのホイッスルと同時か，あるいはその後に要求すること。

15.11.1.2　要求する権利のないチームメンバーが要求すること。

15.11.1.3　インプレー中の選手の負傷や病気の場合を除いて，同じチームが同じ中断中に２回目の選手交代を要求すること。

15.11.1.4　タイムアウトと選手交代の許容回数を超えて要求すること。

15.11.2　試合での１回目の不当な要求は，試合に影響を与えず，試合の遅延にならなければ拒否される。罰則の適用を受けることはないが，記録用紙には記録される。

15.11.3　同じチームが試合中に，さらに不当な要求をした場合は遅延行為とみなされる。

（注）

1　正規の試合中断の要求に関して，チームが不当な要求で拒否された後，その中断中に同じチームによる同じ試合中断の要求は認められないが，違う種類の試合中断の要求は認められる。ただし，15.11.1.1 の不当な要求については，サービスの実行が優先され，試合中断の要求はすべて認められない。

2　正規の試合中断の要求に関して，チームが遅延警告を受けた場合，同じチームによる試合中断の要求は，次のラリーが完了するまで認められない。（けがや病気による選手交代を除いて）

3　５回の選手交代を終えた後に，２人の交代選手が選手交代ゾーンに入ってきた場合，副審は，監督に１組の選手交代だけが可能であることを伝え，どちらの選手交代を行うかを尋ねなければならない。そこに遅延がなければ，他の選手交代は不当な要求として拒否され，記録用紙に記録される。

4　サービスのホイッスルと同時か，あるいはその後の試合中断の要求は拒否され，ラリー終了後，記録用紙に不当な要求として記載する。もしも副審がホイッスルした場合でも，特に試合を遅らせずに再開できる時には遅延とはせずにサービスのホイッスルを吹き直し，そのラリー終了後に不当な要求の処置を行う。